

10

**PHIL  
HAR  
MONY**

October 2020  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

# 感染症予防対策についての取り組み

---

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、  
以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
  - 入退場時および会場内では、まわりの方々と距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
  - 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。  
また、お連れ様のチケットをお預かりすることもできませんので、あらかじめご了承ください。
  - 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。  
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
  - 座席については、前後左右に空間を設けた配置となっております。必ずお持ちのチケットのお席でご鑑賞ください。
  - ロビー等での歓談はなるべくお控えください。
  - 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
  - サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
  - 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 
- 喫茶コーナーは休止しております(サントリーホールはソフトドリンクのみの提供)。
  - 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
  - NHK ホールの喫煙コーナーは休止しております。
  - クロークは休止しております。
  - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
  - 会場内で他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。
  - NHKホールでの公演について、終演後に運行していた渋谷駅行きの臨時バスは、3密(密閉・密集・密接)防止の観点から運休となります。

- 
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
  - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
  - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
  - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

# Philharmony

CONTENTS  
OCTOBER 2020

# 10

- 3 [公演プログラム] **NHKホール** | 10月17日、18日
- 6 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 10月22日、23日
- 10 [公演プログラム] **サントリーホール** | 10月28日、29日
- 13 [シリーズ] **N響百年史** | 第13回 | オペラかシンフォニーか、それが問題だ 片山杜秀
- 18 特別支援・特別協力・賛助会員／ご寄付の御礼
- 22 NHK交響楽団メンバー
- 23 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members
- 24 2020-21シーズン公演日程／11月公演 チケット発売中
- 表3 役員等・団友

## お客様へのお願い



公演中は携帯電話、  
時計のアラーム等は  
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで  
お楽しみください



場内での録画、録音、  
写真撮影は固くお断り  
いたします



私語、パンフレットを  
めくる音など、  
物音が出ないように  
ご配慮ください



演奏中の入退場は  
ご遠慮ください



補聴器が  
正しく装着されているか  
ご確認ください

# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

East Japan Railway Company

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

10/17 土 6:00pm  
10/18 日 3:00pm

# NHKホール

NHK Hall

October

17(Sat) 6:00pm

18(Sun) 3:00pm

指揮

鈴木雅明

Masaaki Suzuki, conductor

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

17 & 18, OCT. 2020

## ハイドン

交響曲 第101番 二長調 Hob. I-101

「時計」[29']

- I アダージョープレスト
- II アンダンテ
- III メヌエット:アレグレットートリオ
- IV 終曲:ヴィヴァーチェ

## モーツァルト

交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

[30']

- I アダージョーアレグロ
- II アンダンテ・コン・モート
- III メヌエット:アレグレットートリオ
- IV 終曲:アレグロ

\*この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

## Franz Joseph Haydn (1732-1809)

Symphony No. 101 D Major

Hob. I-101 "Die Uhr"

- I Adagio - Presto
- II Andante
- III Menuetto: Allegretto - Trio
- IV Finale: Vivace

## Wolfgang Amadeus Mozart

(1756-1791)

Symphony No. 39 E-flat Major

K. 543

- I Adagio - Allegro
- II Andante con moto
- III Menuetto: Allegretto - Trio
- IV Finale: Allegro

\*This concert will be performed with no intermission.

---

**Artist Profile****鈴木雅明 (指揮)**

©Marco Bregno

鈴木雅明に国際的な名声をもたらしたのは、まずそのバッハ演奏である。オルガンそしてチェンバロ奏者としてはもとより、1990年に結成した合唱団とピリオド楽器オーケストラからなる、「バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)」との活動は、1995年から18年がかりで完結した教会カンタータ全曲演奏および録音という壮業をはじめ、多くの実りを現代のバッハ演奏にもたらした。近年はBCJのほか海外のピリオド楽器オーケストラ、モダン楽器オーケストラとの共演も多く、ハイドンからマーラー、ストラヴィンスキーに至る幅広いレパートリーに新鮮なアプローチを聴かせている。これまでにニューヨーク・フィルハーモニック、バイエルン放送交響楽団、ボストン交響楽団などに客演。東京藝術大学作曲科および同大学院オルガン専攻で学び、アムステルダム・スウェーリンク音楽院でドン・コープマンらに師事。東京藝術大学古楽科設立に携わり、2010年まで20年にわたり指導した。2001年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章、2011年紫綬褒章、2013年サントリー音楽賞(バッハ・コレギウム・ジャパンと共に)など受賞多数。NHK交響楽団との共演はこれが初となる。

[矢澤孝樹 / 音楽評論家]

---

**Program Notes | 石井 明**

古典派を代表する作曲家2人が、それぞれ晩年期に書いた交響曲を取り上げたプログラム。両作品とも、交響曲が創成期を経て一定の完成の域に達した時期に作曲され、やがては長大化していくロマン派の交響曲を予知させる要素を多分に含んでいる。それを象徴するかのように、それぞれの第1楽章には序奏が付されている。

**ハイドン**

---

**交響曲 第101番 二長調 Hob. I-101「時計」**

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)は、18世紀初頭からおもにイタリアのオペラの序曲として書かれていた「シンフォニア」とは一線を画す、「交響曲」というジャンルを切り拓いていった。1761年より長く仕えた、ハンガリーのエステルハージ家では、毎年のように交響曲を創作し、それらは時代を経るごとに成長と発展を見せた。ハイドンによる新ジャンルの創作活動の集大成は、エステルハージ家の宮廷楽長を離職した後の1790年代に、2度にわたって訪問したロンドンの聴衆のために作曲した、《第101番「時計」》を含む12の交響曲(《第93番》~《第104番》)である。これらは、それまでとは比較にならないほどに大規模で複雑な構成を持つ作品となっている。

第1楽章は、不安を煽るような雰囲気を持つ短調の序奏で始まる。しかしすぐに、明るく軽快な主題へと移行する。第2楽章は、滑稽なほどにシンプルな、まるで「時計」が時を刻むのを表したような旋律とその伴奏音型が変奏されていく。第3楽章のメヌエット部は壮大な構造を持ち、堂々とした風格を備えている。それに対してトリオ部は、冗談かと思わせるような単純な音楽で成り立っている。速いテンポを持つ終楽章は、主題がまず静かに奏でられる。この旋律は、劇的な場面を挟みながら幾度となく繰り返されていく。

作曲年代	1793～1794年
初演	1794年3月3日、ロンドンにて。作曲家自身の指揮による
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

## モーツァルト

### 交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)の最後の交響曲は、1788年の6月から8月にかけて立て続けに完成された《交響曲第39番》《第40番》、そして《第41番》である。これら3作品の作曲の経緯や目的については、演奏会の企画、出版の予定、またはロンドン訪問の計画があったなどとされることがあるが、どれも推測の域を超えておらず明らかになっていない。3曲の交響曲には、多くの「工夫」と「新しさ」が随所に見られる。例えば《交響曲第39番》では、モーツァルトの交響曲としては初めて、オーボエが割愛されクラリネットが全楽章で用いられている。

第1楽章は、バロック時代のフランス風序曲を模した序奏から始まる。2拍子、二重付点のリズム、音階的な音型など、古い様式への回帰が伺える。音階を模した動機は、アレグロにおいても多用されている。第2楽章の主題の前半部分は、上行の音階を基盤とし、後半部分はそれがさらに拡張されている。この旋律は楽章を通して繰り返し現れる。第3楽章は、堂々とした風格を持つメヌエットと、2本のクラリネットが主役となるトリオで構成されている。第4楽章は、ハイドンや後のベートーヴェンが得意とした、旋律を常に変化させながら音楽を進行させていくという手法が採られている。そこには第1楽章の序奏に見られるような、音階的な動機も多数見られる。

作曲年代	1788年6月26日完成
初演	不明(作曲者の生前に演奏されたという確固たる記録は残されていない)
楽器編成	フルート1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

## 石井 明 | Akira Ishii

慶應義塾大学教授。音楽学博士。専門領域は、西洋音楽における17・18世紀の演奏習慣など。

10/22 木 7:00pm  
10/23 金 7:00pm

# 東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

October

22(Thu) 7:00pm

23(Fri) 7:00pm

指揮

鈴木雅明 | プロフィールは p.4  
Masaaki Suzuki, conductor

サクソフォーン

須川展也  
Nobuya Sugawa, saxophone

コンサートマスター

篠崎史紀  
Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

武満 徹

デイ・シグナル [3']

武満 徹

ガーデン・レイン [5']

武満 徹

ナイト・シグナル [3']

ラーション

サクソフォーン協奏曲 作品14 [19']

I アレグロ・モルト・モデラート

II アダージョ

III アレグロ・スケルツァンド

ベルワルド

交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」 [30']

I アレグロ・リソルート

II アダージョ

III スケルツォ: アレグロ・モルト・トリオ

IV 終曲: アレグロ・ヴィヴァーチェ

\*この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

Toru Takemitsu (1930–1996)

Day Signal

Toru Takemitsu

Garden Rain

Toru Takemitsu

Night Signal

Lars-Erik Larsson (1908–1986)

Saxophone Concerto Op. 14

I Allegro molto moderato

II Adagio

III Allegro scherzando

Franz Adolf Berwald (1796–1868)

Symphony No. 4 in E-flat Major  
“Sinfonie naïve”

I Allegro risoluto

II Adagio

III Scherzo: Allegro molto – Trio

IV Finale: Allegro vivace

\*This concert will be performed with no intermission.

## Artist Profile

## 須川展也(サクソフォン)



日本のサクソフォン界を牽引する世界的奏者。東京藝術大学で大室勇一に師事し、第1回日本管打楽器コンクール・サクソフォン部門で第1位を得てデビュー。N響をはじめとする多くの日本のオーケストラと共演するほか、海外著名オーケストラとの共演やさまざまなジャンルのミュージシャンとのコラボレーション、海外30か国以上でのリサイタルやマスタークラス、約30枚におよぶCD録音など、多彩な活動を展開している。2002年にはNHK連続テレビ小説『さくら』のテーマを演奏。現代作曲家への作品の委嘱も積極的に行い、その多くが国際的なレパートリーとなっている。

1989年から2010年まで東京佼成ウインドオーケストラのコンサートマスターを務め、現在は、30年以上活動を続けるトルヴェール・クワルテットのメンバー、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、東京藝術大学招聘教授、京都市立芸術大学客員教授ほかさまざまなポジションで活躍中。N響とは、2001年、2012年の定期公演をはじめ、数多くの共演を重ねている。

[柴田克彦／音楽評論家]

## Program Notes | 神部 智

20世紀後半の新しい音響(武満)から20世紀前半の新古典主義(ラーション)、19世紀中葉の盛期ロマン主義(ベルワルド)へと時代を遡りながら、音楽家の世界観の変化を聴き取ることができるプログラム。武満は日本の美意識、そしてベルワルドとラーションは北欧スウェーデンの感性に基づいて、それぞれの時代精神を俯瞰する。

## 武満 徹

## デイ・シグナル／ガーデン・レイン／ナイト・シグナル

〈デイ・シグナル〉と〈ナイト・シグナル〉の2曲からなる《シグナルズ・フロム・ヘヴン》と《ガーデン・レイン》は、武満徹(1930~1996)による数少ないブラス・アンサンブル作品である。いずれの曲もアンサンブルは2群に分けて扱われており、多彩に重なり合う音色の妙を味わうことができる。

温和で幸福な気分にあふれた《シグナルズ・フロム・ヘヴン》は、作曲者の言葉によると「親しい友人たちへの挨拶としての信号である」という。リズムカルに躍動するハーモニーの中から、くっきりとした旋律がこだまのように浮かび上がっては消えていく。

《ガーデン・レイン》は、あるオーストラリアの少女が記した「時間は生命の木の葉で、私はその庭師。時間が順々に散っていく、ゆっくりと」という内容の詩からインスピレーション

ンを得ている。最弱奏のブラス・アンサンブルが万華鏡のように響きを少しずつ変化させながら、静かに時間を紡いでいく繊細な作品である。

作曲年代	[デイ・シグナル]1987年 [ガーデン・レイン]1974年 [ナイト・シグナル]1987年
初演	[デイ・シグナル]1987年7月25日、今村能指揮、レ・シュヴァリエ・ブラス・アンサンブル [ガーデン・レイン]1974年11月8日、フリリップ・ジョーンズ・ブラス・アンサンブル [ナイト・シグナル]1987年9月14日、マティアス・バーメルト指揮、スコットランド・ナショナル管弦楽団
楽器編成	[デイ・シグナル]グループI:トランペット3、トロンボーン3 グループII:ホルン2、ピッコロ・トランペット1、トランペット1、トロンボーン1、チューバ1 [ガーデン・レイン]グループI:ホルン1、トランペット2、トロンボーン1、チューバ1 グループII:トランペット2、トロンボーン3 [ナイト・シグナル]グループI:ホルン2、コルネット1、トランペット1、トロンボーン1、チューバ1 グループII:ホルン2、トランペット1、トロンボーン2

## ラーション

### サクソフォーン協奏曲 作品14

20世紀のスウェーデンを代表する作曲家ラーシュ・エーリック・ラーション(1908~1986)は、ストックホルム音楽院で学んだ後、ウィーンとライプツィヒに留学。短い期間だがアルバン・ベルクに師事している。帰国後は音楽評論家や指揮者として精力的に活躍したほか、母校の音楽院とウプサラ大学で後進の指導にあたった。

ラーションの作風は驚くほど多様であり、後期ロマン派や新古典主義、さらには十二音技法に至るまで、さまざまな作曲様式が取り入れられている。そのため折衷的といわれることもあるが、柔軟な発想で表現の幅を広げていったラーションの作品は、いずれも洗練されていて完成度が高い。

1934年に完成したラーションの《サクソフォーン協奏曲》は、ドイツ生まれの名手ジークルト・ラシャー(1907~2001)のために創作された新古典主義風の軽快な作品である。20世紀前半に作曲されたアルト・サクソフォーンの協奏曲としては、ラシャーに献呈されたイペールの《アルト・サクソフォーンと11の楽器のための室内小協奏曲》(1935)と双璧をなす。協奏曲にはラシャーが新たに考案したサクソフォーン奏法も取り入れられており、きわめて高度な演奏技術が求められる。

第1楽章は、曲の冒頭でサクソフォーン独奏が提示する息の長い主題を中心にしながら、リズムカルに展開していく。

第2楽章は、叙情的な旋律が美しいロマンチックなアダージョ。

洒脱<sup>しやだつ</sup>な佇<sup>たなず</sup>まいを見せる第3楽章は、軽やかなスケルツァンド。

作曲年代	1934年
初演	1934年11月27日、ジークルト・ラシャー独奏、トード・ベンネル指揮、ノールショピング交響楽団
楽器編成	弦楽、サクソフォーン・ソロ

ベルワルド

## 交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

フランツ・アドルフ・ベルワルド(1796~1868)は、ストックホルムの音楽一家に生まれたスウェーデンの作曲家、ヴァイオリニスト。ベルワルドは幼少期より優れた音楽的才能を発揮したが作曲家としては不遇で、生活のために整形外科や理学療法の診療所、ガラス器工場を経営するなど異例な人生を送った。青年時代にベルリンへ留学し、ウィーンやパリでも精力的に創作活動を行ったベルワルドの作品がようやく注目され始めたのは彼がスウェーデンに帰国した晩年期のことであり、1867年にはストックホルム音楽院の作曲科教授に就任。しかし時すでに遅く、翌1868年に肺炎で亡くなった。

ベルワルドは1842年から1845年にかけて、後に代表作となる4つの交響曲を一気に書き上げている。それらの作曲年代はドイツの巨匠ローベルト・シューマン(1810~1856)の交響曲とほぼ重なるものの、豊饒なロマンチズムに満ちたシューマンの作品と比べて、ベルワルドの4曲は古典的な明快さや素朴さ、軽やかで清澄なりリズムが特徴といえる。

《交響曲第4番「ナイーヴ」》は1845年に完成したが、スウェーデンの作曲家ルドヴィグ・ヌールマン(1831~1885)の尽力により初演されたのは作曲家没後の1878年である。なお同交響曲の「ナイーヴ」というタイトルは、ベルワルドの自筆譜に記されていない。その理由は不明だが、作曲者は当初より《第4番》を「天真爛漫な」という意味を込めて「ナイーヴ」と呼んでいた経緯があり、そのため現在では曲名に上記のタイトルを加えるのが一般的である。ソナタ形式に基づく**第1楽章**(変ホ長調)は、天空に大きな弧を描くような主題と、それを彩るリズムカルな楽想が特徴。大らかな**第2楽章**(ニ長調)は、叙情的な旋律が繰り返されながら徐々に高揚していくアダージョ。**第3楽章**(変ロ長調)は強弱記号の**p**を全体の基調とした軽妙なスケルツォ。**第4楽章**(変ホ長調)は、第1楽章冒頭で用いられた同音連打のシグナルとともに力強く開始し、楽想の断片がモザイクのように組み合わされながら駆け抜けていく華麗なフィナーレ。

作曲年代	1845年
初演	1878年4月9日、ルドヴィグ・ヌールマン指揮、ストックホルム王立歌劇場管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

神部 智 | Satoru Kambe

茨城大学大学院教育学研究科教授。専門は19世紀から20世紀にかけての西洋芸術音楽の歴史的、美学的研究。

10/28 水 7:00pm  
10/29 木 7:00pm

# サントリーホール

Suntory Hall

October

28(Wed) 7:00pm

29(Thu) 7:00pm

指揮

鈴木雅明 | プロフィールは p.4  
Masaaki Suzuki, conductor

コンサートマスター

白井 圭  
Kei Shirai, concertmaster

## シューベルト

### 交響曲 第2番 変口長調 D. 125 [29']

- I ラルゴーアレグロ・ヴィヴァーチェ
- II アンダンテ
- III メヌエット：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- IV プレスト・ヴィヴァーチェ

## シューベルト

### 交響曲 第4番 ハ短調 D. 417

#### 「悲劇的」[31']

- I アダージョ・モルト—アレグロ・ヴィヴァーチェ
- II アンダンテ
- III メヌエット：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- IV アレグロ

\*この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

## Franz Schubert (1797–1828)

### Symphony No. 2 B-flat Major D. 125

- I Largo – Allegro vivace
- II Andante
- III Menuetto: Allegro vivace
- IV Presto vivace

## Franz Schubert

### Symphony No. 4 C Minor D. 417

#### “Tragische”

- I Adagio molto – Allegro vivace
- II Andante
- III Menuetto: Allegro vivace
- IV Allegro

\*This concert will be performed with no intermission.

## Program Notes | 堀 朋平

「あふれる若書きの魅力」——《未完成交響曲》(1822)に先立つフランツ・シューベルト(1797~1828)の6作には、この形容がぴったりだ。10代の青年は、巨大な先輩に導かれながらも独創を重ね、やがて「大交響曲の道」(1824年、友人への書簡より)を拓く。そんな野心をすではっきり秘めた、どれひとつ似たもののないシンフォニーたち。そこから本日は2つの側面を味わえる。〈伸びゆく巨木〉と〈哲学者シューベルト〉の姿を。

シューベルト

## 交響曲 第2番 変ロ長調 D. 125

「シューベルト、最後にカラスのように鳴く。1812年7月26日」。15歳で声変わりを迎えた作曲家はその翌年、おもに聖歌隊員として5年間を過ごした王室直属の寮学校をあとにして自立をはじめた。これに伴って、音楽の受け手と演奏仲間も「友人や先輩」から「友人の友人」といった範囲まで広がり、外からも聴衆が詰めかけるようになった。半ばプライベートな演奏の場を提供してくれたのは、オットー・ハトヴィヒ。20歳も年長の王宮ヴァイオリニストである。ウィーン市内の好立地(今日のフライウング)にあるその邸宅で、《交響曲第2番》から《第6番》は鳴り響いたはずだ。

完璧なバランス感覚を示す前作《第1番》(1812年)に比べると、《第2番》は驚くほど実験的でスリリングだ。自筆譜にも多くの推敲が刻まれている。第1楽章は、ベートーヴェン《プロメテウスの創造物》のテーマをなぞりつつも、拍節感はめまぐるしく交替し、形式観もイレギュラーだ。こうして、伝統的には柔らかいはずの「変ロ長調」のパレットに、御しがたいエネルギーが惑乱してゆく——まるで古典の殻を破ってぐんぐん伸びる巨木のように。第2楽章は、どこかで聴いたような、おそらくモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》第2幕のアリア〈恋人を慰めて〉に基づく変奏曲。愛らしい響きは、真ん中を過ぎたあたり(第3変奏)でハ短調の咆哮<sup>ほうこう</sup>に変わる。第3楽章が引き継ぐのはまさにこのパトスだ。ふつつ「メヌエット楽章」は主調をとる。緩徐楽章のロマンチックな世界を元に戻すためである。ベートーヴェンさえ交響曲ではこの法則を遵守したが(ただし《第7番》は例外)、シューベルトはこれを打ち破ってハ短調のメヌエットを書いた。とどまるところを知らぬエネルギーは、第4楽章の展開部で解き放たれる「タン、タタ」のリズムで最高潮にたっする。

人をたえず駆り立てる祭りのような騒擾<sup>そうじょう</sup>——。この交響曲を「習作」と呼んではなるまい。ここに宿る野心、実験、逸脱は、やがて7年後の《未完成交響曲》に結実するだろう。

作曲年代	1814年12月10日~翌年3月24日(自筆譜より)
初演	正式には1877年10月20日、ロンドンのクリスタル・パレスにて。ただし作曲後、おそらくハトヴィヒ邸にて半ば私的に演奏された
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

シューベルト

## 交響曲 第4番 ハ短調 D. 417「悲劇的」

「歌曲の作曲家」であること。それは何より、詩人の抱く思想に共感できる教養と知的センスの持ち主であることを意味する。古代ギリシアから最新のロマン派まで、哲人の思索をめぐってインテリの友人たちと熱く語り、それを音楽に変えることができたからこそ、「シューベルティアード」と呼ばれる友人サークルの輪は絵画や文学を巻き込んで広がっていたのだ。そういう哲学や思想、ときに宗教観がシューベルトの器楽に染み入っていたことは、《死と乙女》四重奏曲などが示すとおりである。《交響曲第4番》は、その傾向がきわめて早い時期に現れた例だろう。自筆譜の扉ページには、自身の手で「交響曲ハ短調」の上に(ちがうインクで)「悲劇的(Tragische)」と書き足されている。当時のウィーンの論壇では(とくにシラーの戯曲を介して)哲学的な「悲劇論」が流行していた。人を死に追い立てる容赦ない運命こそが人間を自由にするという思想であり、シューベルトもこれに浴していた。本作を仕上げた少しあとの日記にはこんな文章が読まれる。「人間は、偶然や抗えぬ情念と戯れるひとつのボールに等しい」(1816年9月8日)。プラトンやシェークスピアが言ったように、我らは神の操り人形にすぎぬというわけだが、「人間を(…)あるがままに受けとろう」という肯定の辞でこの一節は閉じられる。19歳のシューベルトは、悲劇と人間讃歌という古来のテーマに思いをめぐらす哲学者でもあったのだ。

「ハ短調」も深い意味をもつ。《第5交響曲「運命」》や《コロラン序曲》に聴かれるとおり、この調はベートーヴェンにとって、人間を重く圧するものの象徴だった。その表現力に感化されたゆえ、シューベルトもこの調に深い意味を与えたのである(上記の《第2番》も参照)。《第4番》が「悲劇的」と名付けられたことの意味は、第1楽章と第4楽章に凝縮されている。ベートーヴェンの《第5番》のような、重苦しい「ハ短調」から軽やかな「ハ長調」への転換がその要である。第2楽章「アンダンテ」のテーマは18世紀ふうの素朴な歌謡性に満ちているが、後年、ドヴォルザークはその随所にワーグナーの「トリスタンの不安」を予告する響きを聴いた。第3楽章は「メヌエット」でありながらもリズムが複雑であり、主調が回避されている点で《第2番》の路線を継承する。大先輩の遺産と、そこから自由になろうとする心意気——そのせめぎ合いに、「若書き」の魅力はあふれている。

作曲年代	1816年4月。同月27日完了(自筆譜より)
初演	正式には1849年11月19日、ライプツィヒの書籍見本市にて。ただし作曲後、おそらくハトヴィヒ邸にて半ば私的に演奏された
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

堀 朋平 | Tomohei Hori

国立音楽大学、西南学院大学講師。専門はシューベルト研究を中心とした19世紀音楽、音楽思想史。

# N響百年史

## 第十三回—オペラかシンフォニーか、それが問題だ

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「FMクラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、N響の歴史を時代背景とともに、独自の視点からひもときます——。カーネギー・ホールでの大成功をひっさげて帰朝した山田耕筰。東京での汚名挽回の秘策は「オペラ」でした。

### 凱旋

山田耕筰は、1918(大正7)年10月と翌年1月、ニューヨークのカーネギー・ホールで、メトロポリタン歌劇場管弦楽団などのメンバーによる臨時編成の大交響楽団を立て続けに指揮し、自作やワーグナーを披露して大成功を収めた。それを勲章に帰国したのは、カーネギー・ホールでの2度目の演奏会から4か月後の5月24日である。

横浜港に着いた山田は、東京朝日新聞記者にかく語った。「渡米目的は日本に於る国民歌劇団創立準備の為であつたが、着米後各所の音楽界に出て大に感ずる所があつて尚二三年彼の地で働くつもりになつた」。さらに言う。「私は最近紐育(ニューヨーク)のリッペル・オペラ会社の音楽総指揮者に推薦されて次のシーズンには市俄高(シカゴ)で坪内博士の『落ちたる天女(原文ママ)』を私が改題作曲した『第七の天女』を上演するに就いてそれに要る衣裳や道具を買ひに来た」

さすが山田である。いきなり大風呂敷を広げている。「リッペル・オペラ会社の音楽総指揮者」とか、ベルリン留学時代に坪内逍遙の台本に作曲したオペラ《<sup>お</sup>落ちたる天女》をシカゴで世界初演するとか、にわか降って湧いたような話が繰り返されている。それに類する契約や口約束は何かあったのかもしれないけれど。とにかく山田の戦略は明快かと思われる。ニューヨークでの成功を糧に、明日からは日本での活動に専心し、東京フィルハーモニー会管弦楽部の失敗の汚名を雪ぐように努めるなどという、殊勝な言い方は決してしない。自分にはもうアメリカでたくさんの仕事が残っている。今度の帰国も一時的なつもりだ。あく

までそう述べている。そこに込められた言外の意味とは何か。今後何年かは活躍の主舞台を海外にするつもりだけれど、日本でも是非とも山田に楽壇を率先してもらいたいとの声が出れば、考えなくもない。そのくらいのことを一所懸命に匂わせようとしている。自分を高く売るとはそういうことだ。

むろん、山田にはそんな大言壮語ももっともらしく思わせるだけの十分な実績があった。それがニューヨークでの成功だ。だからこそ東京朝日新聞の記者も港で山田を待ち構えていた。

### 鈴木三重吉と山田耕筈

帰国からほぼ1か月後の1919(大正8)年6月22日、東京の帝国劇場で「山田耕筈氏歓迎演奏会」が開かれた。主催したのは赤い鳥社。鈴木三重吉が主宰する児童雑誌『赤い鳥』の発行元だ。『赤い鳥』が創刊されたのは1918年7月。山田が日本を空けていた時期で

ある。そのあいだに、この国では新しい文化が急激に花開いていた。第1次世界大戦の好景気が都市部を中心に新興市民階級を分厚く育て、そんなブルジョワの子供たちには明治までの常識を超えた贅沢<sup>ぜいたく</sup>が与えられるようになった。洋服や西洋菓子や楽器や童話や童謡詩である。そういう新しい波の先頭に立ったのが、夏目漱石門下の鈴木三重吉の率いた『赤い鳥』だ。童話や童謡詩だけでなく、1919年5月号からは、童謡詩に作曲された楽譜も掲載した。第1号は、西条八十<sup>やま</sup>作詞、成田為三<sup>なると</sup>作曲の、「唄を忘れた<sup>かなりや</sup>金糸雀<sup>かんとく</sup>は」と歌いだす《かなりや》。これが大反響を巻き起こし、成田は一躍、時代の寵児<sup>ちようじ</sup>となった。成田は山田の作曲の一番弟子。かくて『赤い鳥』と山田にも縁が生まれる。「山田耕筈氏歓迎演奏会」にあたって、鈴木三重吉は読売新聞に長大な談話を寄せた。

鈴木は山田のアメリカでの成功を当然ながら讃える。「氏の米国に於ける音楽的地位の名声に就いては、氏が米国一流の音楽の団



左：鈴木三重吉  
右：『赤い鳥』創刊号の表紙

体である三つの音楽協会、亜米利加音楽家協会、マックドウェル倶楽部、近代音楽協会の名誉会員に推薦されたといふ事を御話するだけで大凡想像が付く事であると思ふ」

続いて鈴木は時事ネタを持ちだし、日本人の愛国心を喚起する。「是等の米国に於ける楽団は云ふ迄もなく彼の国楽壇の権威であつて、(中略)特に従来は有色人種は一切排斥して加入させなかつたと言ふ事である。日本が外交的には人種平等案が受け容れられなかつたり等して、憤慨して居る側に於て芸術的には山田君が痛快に日本を平等以上の位置に引き上げて居るのは実に会心の笑を漏す可き事である」

鈴木はいったい何のことを言っているのか。1919年にはパリで第1次世界大戦の講和会議が開かれていた。戦勝国の側で参加した日本代表団は、人種差別の撤廃を議題に付した。この講和会議は国際連盟の設立を決める会議を兼ねていたが、日本は、これから出来ようとする国際連盟への諸国家の加盟条件に、加盟国が人種差別を行わない原理原則を打ち立てるべきと主張した。ところが、国際連盟設立を提唱するアメリカが黒人や黄色人種を差別する国に他ならず、アメリカでは日系移民も排斥の対象にされている真っ最中であった。日本の提案を支持する国もあり、アメリカでは黒人解放運動団体から期待が寄せられたが、結局、アメリカやイギリスの反対で否決された。4月のことである。全米各地では怒りの黒人暴動が頻発した。山田が帰国し、『赤い鳥』の演奏会が開かれたのは、まさにそうした時期だった。アメリカで西洋音楽家として立派に認められた山田の凱旋は、人種差別撤廃提案否決への痛快なカウンターパンチとして日本の知識層には意識された。

では、山田はアメリカで何を認められたのか。鈴木は、山田から提供されたカーネギー・ホールの演奏会の批評などをもとに、作曲家として、また指揮者として、山田がいかに欧米の一流に互する存在であるかを語り尽くす。そして、山田の指揮と作曲が高く評価された理由の根幹を、山田が西洋音楽をやっている、西洋に同化せず、東洋人の独自性を失っていないところに求める。「東洋人に固有な調律、感情といふやうなものを表し方に於て、西洋の音楽の其種類の欠陥を充した事がアメリカ人を驚嘆させた点であらう。斯くの如きは欧州と東洋の両方面の音楽に精通して居る創造的の才能を有する人に於て初めて遂げられる事である。一言にして言へば、音楽上に東西の融合を得させたといふ効果であると思ふ」

日本人西洋音楽家の“独自性”を評するときの典型例が、鈴木の子山田評によく示されている。理性優位の西洋音楽に対して理を超えた微妙な感情で勝利できるのが日本の音楽家という理屈である。そして鈴木はダメ押しをする。「最近帝都の社交界に於ても米国大使令姉ヂューエン夫人が来朝されて、其出席する各会合の席上で山田氏の芸術を紹介した事によつて初めて氏の外国に於ける声価に驚かされて居る人々もあるやうである」。日本の西洋音楽家が優れているか否かは、西洋人に教えてもらうのがいちばん。お墨付きを出すのは本家本元。21世紀になってもこの国に生きる定法であろう。

アメリカで成功した山田が得た、祖国での新しい定評が、この鈴木の子の談話に集約されると言つてよい。山田は渡米の賭けに勝った。評価は一新されたのである。

シンフォニーがだめでもオペラがあるさ!

けれど、山田や岩崎<sup>こやまた</sup>小彌太の音楽の未来への希望が、当初はあくまで交響楽運動だったとすれば、そこから後退した部分がないとはいえない。山田が横浜に帰着したとき、新聞記者に何と言ったか。「渡米目的は日本に於る国民歌劇団創立準備の為」。あれれ? 「渡米目的は日本に於る新しい交響楽団創立準備の為」ではなかったのか。いつの間にオペラになってしまったのだろうか? 山田が自伝などで晩年まで繰り返し、第1次世界大戦前からすでにそういう確信を持っていたと主張した、日本にクラシック音楽を根付かせる早道についての思想と哲学は、実はこの頃に固まったのではないだろうか。とにかく山田はこの頃からこう述べるようになったのだ。

——交響曲やソナタは日本人には難しい。絶対器楽とはドイツ人の哲学気質によってこそ発展した特別なもので、そういう思惟の伝統のない日本人にはハードルが高いと言わねばならない。真っ先の目標にはならない。では何が喫緊の課題か。やはりオペラである。日本人は江戸時代までずっと、音楽と演劇と舞踊を一体のものとして慣れ親しんできた。楽器だけの音楽もあるが、それは決して日本の主流ではない。雅楽だって大きな部分は踊り付きの舞楽ではないか。宮廷バレエではないか。能、狂言、文楽、歌舞伎。どれも音楽と演劇と舞踊の三位一体だ。江戸時代からの三味線音楽は言葉や舞踊と完全にセットである。したがって、器楽も言葉と結びついてこそ浮かぶ瀬がある。となると交響曲よりもオペラだ。それからバレエだ。日本でのオーケストラの可能性も歌劇場と組み合わせさせてこそ。たとえばロ

シアの近代音楽史を考えると、ロシアの国民音楽と呼べるものは、ムソルグスキーやボロディンのオペラによって確立されたといえるだろう。断じて交響曲ではない。

山田にとって東京フィルハーモニー会管弦楽部の挫折は、それだけのトラウマになったということかもしれない。アメリカから母国に凱旋しても、まず支えてくれるのは『赤い鳥』である。交響楽運動なんて何のことやらと思っていた、同じ第1次世界大戦期の東京のブルジョワジーが、童謡には夢中になって、楽譜入りの雑誌を子供に買い与えている。ならば、転向するしかない。歌曲からオペラへ。交響楽運動はそのための一環くらいに思っておくべきだ。詩と音楽と演劇と舞踊の融合を目指すのが先だ。その証拠に、交響曲やソナタを書きたくて、東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)の教育に飽き足らず、山田に弟子入りしたはずの成田為三が、童謡作曲家として師匠以上に名声を博しているではないか。成田のやっていることに師匠も乗っかる。山田は、日本語の歌曲や童謡に創作分野を移し、そこから日本語のグランド・オペラを導きだそうと考え始める。もちろんオーケストラを作ることは、山田の相変わらずの関心事ではある。でも、その夢にひた走るのは危険だ。交響曲よりも『赤い鳥』の童謡。日本の市民文化の発展段階についての現状を見誤ってはならない。プロ・オーケストラを慌てて再建してみても、たちどころに給料が払えなくなるのが落ちだ。とりあえずは必要なときに、メンバーをいちいち集めるしかない。

## 日本楽劇協会創設と第1回公演

山田は新聞のインタビューどおり、「国民歌劇団創立準備」に邁進した。1920(大正9)年にはオペラ公演のプロデュース組織として日本楽劇協会を創設し、同年暮れ、第1回公演を帝国劇場で行った。ワーグナーの《タンホイザー》の第3幕に、オペラ仕立てにしたドビュッシーのカンタータ《放蕩息子》を加えた。指揮はむろん山田耕筰、オーケストラは臨時編成、演出は土方與志である。

だが、そんな山田のオペラへの路線変更に不満を募らす弟子がいた。日本楽劇協会第1回公演では合唱指揮を担当し、《タンホイザー》では早稲田や慶應の学生コーラスを動員して膨大な人数の「巡礼の合唱」で舞台

を埋め尽くして見せた近衛秀麿である。彼は1919年、学習院から東京帝国大学に進んでいた。童謡に向かう成田や、交響楽運動よりもオペラ運動を優先させようとする山田に違和感を持ち始めた。やっぱり交響曲だろう! こうなったら師匠を乗り越えて、自分が交響楽運動を率先しなくては!

師と弟子はすでにこの頃からそりが合わなくなりはじめていた。近衛と山田が決別し、近衛が新交響楽団(現NHK交響楽団)を作る、まだ6年前の話である。

### 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

#### 次回予告

師匠がオペラなら、自分はシンフォニーだ! とばかりに欧州へ渡った近衛秀麿。いよいよその武者修行が始まります。

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   吉田淳一
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長   深澤祐二
株式会社 みずほ銀行	頭取   藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
ユナイテッド航空会社	アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長   Marcel Fuchs
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   平子裕志
株式会社 松尾楽器商会	代表取締役   松尾治樹
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役社長執行役員 最高執行責任者 谷原 徹
・ アイシン・エィ・ダブリュ(株) 取締役社長   尾崎和久	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   小野木昌史
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ 伊東国際特許事務所 会長   伊東忠彦	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長   小泉公二
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   小路明善	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長   浅田剛夫	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   松原洋一
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長   熊楚御堂朋子
・ 朝日信用金庫 理事長   橋本 宏	・ (株)ウイングツァー 代表取締役   福田健二	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長   山本 真
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   高波博之	・ AGC(株) 代表取締役兼社長執行役員   島村琢哉	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   安齋尚志
・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史		

- ・(学)NHK学園  
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(株)NHK 文化センター  
代表取締役社長 | 泉谷八千代
- ・(一財)NHK 放送研修センター  
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー  
代表取締役社長 | 橋本肇
- ・(株)NTT ドコモ  
代表取締役社長 | 吉澤和弘
- ・(株)NTT ファシリティーズ  
代表取締役社長 | 一法師 淳
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡邊佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)  
代表取締役執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 澤田道隆
- ・カンオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 押味至一
- ・片倉康行
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 社長執行役員  
仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフェンプラットフォーム(株)  
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション  
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント  
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役社長 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・JXTGホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 杉森 務
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム  
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
名誉院長 | 松木康夫
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)  
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)  
代表取締役会長兼グループ CEO  
服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・全国農業協同組合連合会  
経営管理委員会 会長 | 長澤 豊
- ・洗足学園音楽大学  
学長 | 万代晋也
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 西澤敬二
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日本印刷(株)  
代表取締役 | 北島義俊
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長COO | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田原 昇
- ・中外製薬(株)  
代表取締役会長 | 小坂達朗
- ・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・(株)TOKAIホールディングス  
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・東邦音楽大学  
理事長・学長 | 三室戸東光
- ・桐朋学園大学  
学長 | 梅津時比古
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 濱田矩男
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 二宮清隆
- ・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 足立直樹
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業(株)  
取締役会長 | 林 正道
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・(株)日放ツーリスト  
代表取締役社長 | 谷本佳則
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 大島 卓
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・日本通運(株)  
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)  
代表取締役 執行役員社長  
新野 隆
- ・日本土地建物(株)  
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 北爪秀樹
- ・日本郵政(株)  
代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 山本利行
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック(株)  
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 井上福造
- ・(株)日立製作所  
執行役員社長 | 東原敏昭
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博予
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・(株)松尾楽器商会  
代表取締役 | 松尾治樹
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
取締役社長 | 原 典之
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠
- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・三菱電機(株)  
執行役員社長 | 杉山武史
- ・(株)緑山スタジオン・シティア  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健

・(株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵

・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾

・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔

・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸

・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦

・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人

・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄

・米澤文彦

・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 藤沼大輔

・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆

・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
坂主智弘

・料亭 三長  
代表 | 高橋千善

・(株)リブレ  
代表取締役社長 | 鈴木信也

・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二

・ルーム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功

・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：「フィルハーモニー」、「年間パンフレット」、「第9」演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

## ご寄付の御礼

この度の新型コロナウイルス感染症の流行に際し、以下の2社より日本オーケストラ連盟を通じて、NHK交響楽団にご寄付をいただきました。ご支援に心より御礼を申し上げます。

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ

株式会社 三菱UFJフィナンシャル・グループ

# NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：ライナー・キュッヒル、白井 圭

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
齋藤真知亜  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
○森田昌弘  
○山岸 努  
□横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

○大林修子  
☆大宮臨太郎  
木全利行  
齋藤麻衣子  
嶋田慶子  
○白井 篤  
鈴木弘一  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦

宮里親弘  
矢津将也  
山田慶一  
○横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

○佐々木 亮  
◇川本嘉子  
小野 聡  
小島茂隆  
坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村翔太郎  
○中村洋乃理  
松井直之  
#御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

○藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
辻本 玲  
中 実穂  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂広志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真歩  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
#山根孝司

## ファゴット

◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
◎福川伸陽  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
栗田雅勝  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
深畑一徳

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

**Chief Conductor:** Paavo Järvi

**Music Director Emeritus:** Charles Dutoit

**Honorary Conductor Laureate:** Herbert Blomstedt

**Conductor Laureate:** Vladimir Ashkenazy

**Permanent Conductors:** Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

**First Concertmaster:** Fuminori Maro Shinozaki

**Concertmaster:** Ryotaro Ito

**Guest Concertmaster:** Rainer Küchl, Kei Shirai

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Machia Saito
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Masahiro Morita
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Nobuko Obayashi
- ☆ Rintaro Omiya
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Koichi Suzuki
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Chikahiro Miyazato
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◇ Yoshiko Kawamoto
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Genaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Shotaro Nakamura
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Rei Tsumijmoto
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- ◎ Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando

Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Masakatsu Kurita
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga  
Kazunori Fukahata

## Librarian

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

# 2020-21シーズン公演日程

	NHKホール 土6:00pm / 日3:00pm	東京芸術劇場 金7:00pm / 土2:00pm	サントリーホール 水7:00pm / 木7:00pm
20 20	10 10/17(土) 18(日)	10/22(木) 7:00pm* 23(金) 7:00pm <small>* 通常土曜日の公演を木曜日7:00pmに 開催します</small>	10/28(水) 29(木)
	11 11/14(土) 15(日)	11/20(金) 21(土)	11/25(水) 26(木)
	12 12/5(土) 6(日)	12/11(金) 12(土)	12/16(水) 17(木)
20 21	01 1/16(土) 17(日)	1/22(金) 23(土)	1/27(水) 28(木)
	02 2/6(土) 7(日)	2/12(金) 13(土)	2/17(水) 18(木)
	04 2021年4月～6月は、 サントリーホールで 3プログラム6公演を 行う予定です。 詳細は後日発表します。	4/16(金) 17(土)	4/21(水) 22(木)
	05	5/21(金) 22(土)	5/26(水) 27(木)
	06	6/11(金) 12(土)	6/16(水) 17(木)

## NHK交響楽団 11月公演 | チケット発売中

### NHKホール

2020年11月14日(土) 6:00pm | 15日(日) 3:00pm  
指揮：熊倉 優 | ピアノ：藤田真央  
メンデルスゾーン / 序曲「フィンガルの洞窟」作品26  
シューマン / ピアノ協奏曲 イ短調 作品54  
バッハ(レーガー編) / コラール前奏曲「お人よ、おまえの  
罪に泣け」BWV622  
メンデルスゾーン / 交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

### 東京芸術劇場 コンサートホール

2020年11月20日(金) 7:00pm | 21日(土) 2:00pm  
指揮：原田慶太楼 | ヴァイオリン：神尾真由子  
コリャーノ / 航海  
バーバー / ヴァイオリン協奏曲 作品14  
ドヴォルザーク / 交響曲 第9番 ホ短調 作品95  
「新世界から」

### サントリーホール

2020年11月25日(水) 7:00pm | 26日(木) 7:00pm  
指揮：原田慶太楼  
バーンスタイン / 「オン・ザ・タウン」  
—「3つのダンス・エピソード」  
G. ウォーカー / 弦楽のための叙情詩  
ピアソラ / タンガーン(フェノサアイレス変奏曲)  
コーブランド / バレエ組曲「アパラチアの春」  
マルケス / ダンソン 第2番

#### WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約は、スマートフォンやPC  
から、座席を選んで簡単にチケットが確保  
できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ：N響ガイド TEL 03-5793-8161  
※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください。

Iwatani

おかげさまで90年

90<sup>th</sup>  
さあ、100年企業へ

# 水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちには、水素がある。燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない

その究極のクリーンエネルギーは、すでにロケットを宇宙へ送り、

先端産業を支え、電気を作り、車を走らせている。

世の中に必要なものは、必ず世の中の当たりまえになってゆく。

だから突き進もう。水素で、もっと社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1<sup>※</sup>

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年8月現在、自社調べ)